

(2014年度)

## 5 日本史問題 (60分)

(この問題冊子は17ページ，4問である。)

### 受験についての注意

1. 監督の指示があるまで，問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に，監督から指示があったら，解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し，所定の欄に氏名を記入すること。次に，解答用紙の右側のミシン目にそって，きれいに折り曲げてから，受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し，机上に置くこと。
3. 監督から試験開始の指示があったら，この問題冊子が，上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は，HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能，計算機能，辞書機能などを使用してはならない。
5. 解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで，そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
6. マークをするとき，マーク欄からはみ出したり，白い部分を残したり，文字や番号，○や×をつけてはならない。
7. 訂正する場合は，消しゴムでていねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
8. 解答用紙を折り曲げたり，破ったりしてはならない。
9. 試験時間中に退場してはならない。
10. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
11. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

中国においては、(ア)年に後漢が滅び、その後は、いわゆる「三国時代」に入ったが、3国の中で華北に位置する(A)は、ほかの2国および東北部から朝鮮半島北部にわたる高句麗と対立して、倭との外交を重視するようになった。

中国におけるいわゆる「倭人伝」では、その所在地をめぐって論争が続いている倭の邪馬台国についてふれている。それによると、3世紀前半、巫女の卑弥呼<sup>(a)</sup>を女王とする邪馬台国を中心にして、約(あ)からなる小国の連合体ができあがった。

中国では、「三国時代」後、国ぐにが興亡をくりかえす分裂状態となった一方、朝鮮半島では(イ)年、高句麗が中国の直轄地ともされる(い)を滅ぼし、半島南部においては、百済・新羅が現われ、南端には伽耶とよばれる小国の連合体が出ていた。4世紀後半、高句麗が南下して、百済や伽耶と対立する一方、百済は、倭との関係を深めた。その関係は、奈良県の(う)に伝わり、百済王が倭王のために(ウ)年につくったとされる七支刀の銘文に記されている。

4世紀末から5世紀初め、高句麗の(B)の功績を示す碑が高句麗の都があった(え)に建てられたが、そこには高句麗が百済を攻撃した時、倭を打ち破ったことが記されている。また、『(お)』倭国伝などでは、倭の五王<sup>(b)</sup>が(エ)年から(オ)年まで中国の南朝と通交を行ったともされ、高句麗に対抗して自らの国際的地位の向上を図るべく、中国からの承認を得ようとした。

やがて、戦乱が続く中国から、医術や易、仏教が朝鮮半島に伝わる一方、高句麗からの圧迫をうける百済や伽耶から渡来人が日本列島に定着するようになった。そして、ヤマト王権は彼ら渡来人を近畿に住まわせたが、その中から西文<sup>(c)</sup>氏、東漢氏、秦氏などはその後、氏族として厚遇された。また、6世紀には仏教や儒教、医術、易などが朝鮮半島から伝えられたが、仏教に関しては(C)のころ、百済の(D)が経典や仏像とともにヤマト王権に贈ったことをもって仏教公伝としている。その年次については諸説あるが、『日本書紀』では(カ)年とされている。

その後、5世紀後半から6世紀にかけて、新羅や高句麗が百済や伽耶へ侵入し

はじめた。それをうけて、ヤマト王権は伽耶へ援軍を派遣しようとしたものの、これは、新羅と結んだ筑紫の国造が起こした乱によって阻まれた。さらに、ヤマト王権において外交を担当していた大連の( E )が百済に伽耶への領土拡大を認めたこともあって、百済および新羅の伽耶への侵入は強まり、( キ )年、伽耶は滅亡を余儀なくされた。一方、中国を統一した隋には7世紀初め、遣隋使として( F )を派遣したが、彼は、2度にわたる隋行きにおいて国書を持参したり、仏教を学ぶ留学生を同行させたりした。

問1 文章中の空欄( A )～( F )に当てはまるもっとも適切な語句を、次から1つずつ選びなさい。

- |        |        |        |         |
|--------|--------|--------|---------|
| ① 敏達天皇 | ② 法興王  | ③ 長寿王  | ④ 小野妹子  |
| ⑤ 故国壤王 | ⑥ 聖明王  | ⑦ 魏    | ⑧ 欽明天皇  |
| ⑨ 呉    | ⑩ 広開土王 | ⑪ 安閑天皇 | ⑫ 大伴室屋  |
| ⑬ 威徳王  | ⑭ 大伴金村 | ⑮ 蜀    | ⑯ 犬上御田歙 |
| ⑰ 矢田部造 | ⑱ 宣化天皇 | ⑲ 大伴家持 | ⑳ 武寧王   |

問2 文章中の空欄( あ )～( お )に当てはまるもっとも適切な語句を、次から1つずつ選びなさい。

- |       |        |      |        |
|-------|--------|------|--------|
| ① 20  | ② 丸都   | ③ 漢書 | ④ 大神神宮 |
| ⑤ 楽浪郡 | ⑥ 石上神宮 | ⑦ 30 | ⑧ 真番郡  |
| ⑨ 平壤  | ⑩ 後漢書  | ⑪ 魏志 | ⑫ 伊勢神宮 |
| ⑬ 40  | ⑭ 玄菟郡  | ⑮ 斯廬 | ⑯ 臨屯郡  |
| ⑰ 熊津  | ⑱ 宋書   | ⑲ 50 | ⑳ 橿原神宮 |

問3 文章中の下線部(a)～(c)の人物にもっとも関係が深く、かつ内容が正しい事柄を、次から1つずつ選びなさい。

- ① その祖は、弓月君とされる。
- ② 魏から「親魏倭王」の称号をあたえられた。
- ③ 讚・濟・珍・興・武の順番とされる。
- ④ その祖は、阿知使主とされる。
- ⑤ 251年に死亡した。
- ⑥ 武は、允恭天皇とされる。
- ⑦ 興は、安康天皇とされる。
- ⑧ 死後の後継者も女性であった。
- ⑨ その祖は、王仁とされる。
- ⑩ 魏から金印および銅剣を賜った。
- ⑪ 濟は、雄略天皇とされる。

問4 文章中の空欄(ア)～(キ)に当てはまるもっとも適切な数字を、次から1つずつ選びなさい。なお、同じものを何回選んでもよい。

- ① 416    ② 219    ③ 311    ④ 497    ⑤ 367    ⑥ 551
- ⑦ 507    ⑧ 370    ⑨ 564    ⑩ 220    ⑪ 421    ⑫ 562
- ⑬ 368    ⑭ 561    ⑮ 426    ⑯ 512    ⑰ 312    ⑱ 222
- ⑲ 313    ⑳ 221    ㉑ 550    ㉒ 369    ㉓ 563    ㉔ 553
- ㉕ 552    ㉖ 314    ㉗ 431    ㉘ 502

2 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

1221年5月、(A)は(B)追討の院宣を発したが、幕府の大軍の前に大敗を喫すこととなった。その結果、朝幕の政治的力関係は逆転し、治天の君・皇位継承、摂関をはじめとする廟堂の人事などに幕府の意向が重くのしかかることになった。1242年、幕府の強い支援をうけて即位した(C)は、在位4年で皇

子の後深草天皇に譲位し、以後、後深草・亀山2代、26年余りにわたり、治天の君として(ア)を行った。その治世は幕府優位のもと公武協調が維持され、比較的安定していた。しかし、(C)が後継の治天の君の選定を幕府に委ねたことから、その没後、朝廷では皇位継承をめぐる、後深草の系統<sup>(a)</sup>と亀山の系統<sup>(b)</sup>に2分され激しい政争を続けていった。幕府は両統の対立を解決するため、両統が交互に皇位につく方式をとるようにさせ、朝廷への干渉を深めていった。両統の対立が複雑化するなかで、幕府は、1317年に次代の皇位については、両統の話し合い<sup>(c)</sup>によって決定するよう申し入れた。こうした情勢下に即位した(D)は、朝政の刷新をはかって、(ア)を廃止して(イ)を復活し、有為の人材を登用し、宿願の天皇(ウ)と(エ)の世の実現にふみだしたのである。その頃、鎌倉では執権(E)のもとで、幕政の実権は内管領の(F)ににぎられており、(オ)政治に対する御家人等の反発も強まって、幕府の権威が失われようとしていた。この機に乗じて、(D)は、2度<sup>(d)</sup>にわたり倒幕計画を実行に移そうとして、失敗に終わり、隠岐に流されたが、畿内近国では新興領主層が反幕勢力として結集され、ついに1333年に(D)は<sup>(e)</sup>隠岐を脱出し(カ)に拠った。それを追討するために西上した(G)が、その途上、一変して倒幕勢力に合流し、さらに(H)が鎌倉に攻め入るに及んで、鎌倉幕府はついに滅亡した。(D)はただちに帰洛の途につき、途中、( )<sup>(f)</sup>の廢位を宣し、京都に帰り、天皇を中心とする公家政権を樹立した。新政府は天皇政治の理想とされた醍醐・村上天皇の治世を模範とし、幕府はもちろん(ア)も摂政・関白も否定し、すべての土地の所有権の確認は、天皇の(キ)を唯一の根拠とすることを取り決めるなど天皇への権力集中をはかった。中央に天皇(ウ)の最高機関として(イ)を復活し、所領などの訴訟処理機関として前代の(ク)を受け継いだ雑訴決断所を設置し、地方には諸国に国司と(ケ)を併置した。しかし、恩賞などにおいて、公家・寺社を優先し、一般の武士を冷遇する新政府の政治姿勢は、自己の所領拡大をめざす武士を失望させることになった。こうした情勢をみて、武家政権の再興をめざしていた(G)は、(E)の遺児が信濃で挙兵し、鎌倉を占拠する事件<sup>(g)</sup>を機に新政府に反旗をひるがえし、一旦は九州に敗走するが、大軍を率いて京都を制圧し、ついに(D)を廃し、( )<sup>(h)</sup>を擁立し

た。

問1 文章中の空欄(ア)～(ケ)に当てはまるもっとも適切な事柄を次から1つずつ選びなさい。

- |        |       |      |       |
|--------|-------|------|-------|
| ① 宣旨   | ② 執権  | ③ 地頭 | ④ 政所  |
| ⑤ 親政   | ⑥ 笠置山 | ⑦ 京職 | ⑧ 引付  |
| ⑨ 公家一統 | ⑩ 記録所 | ⑪ 綸旨 | ⑫ 太政官 |
| ⑬ 得宗専制 | ⑭ 下文  | ⑮ 越訴 | ⑯ 守護  |
| ⑰ 院政   | ⑱ 船上山 | ⑲ 評定 | ⑳ 問注所 |

問2 文章中の空欄(A)～(H)に当てはまる人物について、もっとも適切な説明文を次から1つずつ選びなさい。

- ① 四条天皇の急死をうけて即位，幕府より求められて朝政の刷新と制度の改革をすすめた。皇子を摂家将軍にかえて鎌倉におくり，皇族将軍の先駆けとした。
- ② 上野国生品明神の社前で反幕挙兵の旗をかかげ，新政府樹立に活躍し，一躍政界に躍り出たが，新政府崩壊とともに恒良親王らを奉じて越前に下り敦賀金崎城に入った。
- ③ 有力御家人として幕府の要職を歴任し，幕政の枢要に参画し，急進的な改革を主導したが，御内人勢力との対立が武力衝突に発展し，一族与党とともに滅びた。
- ④ 僅か9歳で家督を継ぎ，当初は政治に意欲的であったが，しだいに田楽・闘犬・遊宴などにふけることが多く「頗る<sup>うつけ</sup>亡氣」と評されるようになった。
- ⑤ 紀伊北部から摂津・河内・和泉に進出し，新興領主層ら反幕勢力の決起を促し，新政府樹立とともに「三木一草」のひとりとして重きをなしたが，摂津湊川で最期をとげた。
- ⑥ 平家の都落ちの後，神器のないまま践祚したが，治天の君となった後は，西面の武士や和歌所などを設置して文武両道の振興をはかり，貴族間

の融和を重視し、政権の支持基盤の拡大に力を入れた。

- ⑦ 北条氏惣領家の被官頭首として有力御家人とも幕政の主導権をめぐり対立するなど権勢をふるったが、主家によって滅ぼされた。
- ⑧ 丹波国篠村八幡宮社前で源氏再興の旗をあげ、赤松則村らと京都に侵攻して六波羅探題を滅ぼし、奉行所を設置して、全国各地から上洛する武士らを傘下に加えた。
- ⑨ 北条氏一門の有力者を連署とするなど合議制を重視する政治をおしすすめ、先例や道理にもとづく武家の根本法典としての「貞永式目」を制定した。
- ⑩ 前將軍藤原頼経に連なる北条一門の反対勢力の名越氏を一掃し、さらに有力御家人三浦氏を宝治合戦で打倒することによって、北条氏惣領家に幕政の実権が集中していった。
- ⑪ 幕府中枢の政所・侍所の別当などを兼任することによって、幕政の実権を掌握し、畠山重忠・和田義盛らの有力御家人を退け、摂家將軍の実現をはたすなど幕府政治の安定につとめた。
- ⑫ 花園天皇の譲位により踐祚し、宋学に深く傾倒して宋朝型の君主独裁政治をめざしたともいわれている。最期に「玉骨ハ縦<sup>たとい</sup>南山ノ苔ニ埋ルトモ、魂魄ハ常ニ北闕ノ天ヲ望ント思フ」と言い遺して崩じた。
- ⑬ 後伏見天皇の皇子で正平一統に際して、大和の賀名生・河内の金剛寺などに移され幽閉されたが、5年後に帰京を果たし、晩年は丹波の常照皇寺ですごした。
- ⑭ 霜月騒動をへて御家人勢力を制圧し、幕府の権力の主導権を確立し、裁判の迅速をはかって執奏を置くなど幕政改革に力を入れた。一方では徳政令を發布して御家人の所領喪失による窮乏の救済にあたった。
- ⑮ 蝦夷管領代官安東氏の内紛に介入し、当事者双方から賄賂を受け取り、「理アルヲ非トシタ」ため紛争をかえって激化させ、奥州安東氏の乱をまねき、幕府の権威を失墜させた。

問3 文章中の下線部(a)～(h)の各問について、もっとも適切な答えを下の語群から1つずつ選びなさい。

- (a) この系統と関係深いものはどれか。
- (b) この系統と関係深いものはどれか。
- (c) この出来事を何というか。
- (d) このうち、最初の事件を何というか。
- (e) こうした領主層を反幕勢力に結集した中心的な人物は誰か。
- (f) この空欄に相当する人物は誰か。
- (g) この事件を何というか。
- (h) この空欄に相当する人物は誰か。

[語群]

- |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| ① 正中の変  | ② 和与中分  | ③ 青蓮院   | ④ 光明天皇  |
| ⑤ 正平一統  | ⑥ 平政連諫草 | ⑦ 恒良親王  | ⑧ 大覚寺   |
| ⑨ 観応の擾乱 | ⑩ 両統迭立  | ⑪ 仁和寺   | ⑫ 中先代の乱 |
| ⑬ 光厳天皇  | ⑭ 元弘の変  | ⑮ 後小松天皇 | ⑯ 文保の和談 |
| ⑰ 護良親王  | ⑱ 崇光天皇  | ⑲ 持明院   | ⑳ 以仁王   |

3 次の文章は、アメリカの大学教員による日本史教科書の江戸時代の序文にあたる部分(抜粋)である。文章をよく読んで以下の問いに答えなさい。

「徳川時代の歴史の特徴として最も重要なことは、戦乱が生じなかった<sup>(1)</sup>ことである。それ以前の時代とのちがいは、計り知れないほど大きい。まず(a)年からはじまった応仁(文明)の乱によって、それまで794年以来天皇の宮廷がおかれ、寺院や公家の屋敷を擁する美しい町であった首都、京都が破壊された。それにつづく1世紀間、戦乱は途絶えることなくつづいた。何十万もの武装した武士たちが、大名と呼ばれる各地の軍事支配者の周囲に群れ集まった。これら各地に割拠した大名たちは、<sup>(3)</sup>土地と、領民と、通商を支配下におくことを目



指して互いに競いあった。

たしかに、戦(いくさ)こそはこの時代を特徴づける最大のキーワードではあったが、この時代がすべての人々にとって癒やしがたい不幸の時代であったかといえ、そうではなかった。商業の繁栄は目覚ましかつたし、都市のなかには比較的<sup>(4)</sup>自立的な国際貿易港として台頭したところもいくつかあった。仏教徒のなかにも、一向宗の宗徒たちのように、自治的なコミュニティである(ア)を形成する者もあった。この人々も、大名支配から独立を勝ちとった。<sup>(5)</sup>

つづいて、1570年代から1600年にいたる時代になると、しばしば残忍な行動にでることも辞さない3人の非凡な支配者が、永続的な政治秩序を打ち立てた。その後1600年代のはじめから19世紀中葉まで250年以上にわたって、江戸幕府の支配となった。大名など武士階級のエリートたちは、政治的な支配者としての地位を維持したが、武士の性質は劇的に変化した。経済や文化にも同様に大きな変化が起きた。

いわゆる天下人として先陣をきったのは織田信長だった。織田家はもともとは、現在の名古屋に近い尾張の国の小規模な(イ)の家柄であった。1555年、<sup>(6)</sup>権力獲得にむけて行動を開始した信長は、まもなく容赦のない恐怖の軍事作戦を展開した。仏教勢力の拠点<sup>(7)</sup>を相次いで襲い、数千の僧侶を殺害し、膨大な經典等の書物と寺院を焼き払った。1580年には、一向一揆の最重要拠点だった(ウ)を包囲し、退去させ勅命講和にもちこんだ。(b)年の本能寺の変で配下の裏切りにより、息子信忠((エ)寺に宿をとり、すぐに二条御新造に移動した)とともに暗殺される時点までに、信長は、日本の約3分の2を平定していた。<sup>(8)</sup>

[中略]

信長の死後、一人の副官が天下統一の意欲に燃えて信長の統一事業を継承した。その人物は、豊臣秀吉といい、身分の低い足輕の出身で、風貌も堂々としたところがなかった。

[中略]

秀吉は、信長が作りだした諸制度を引き継ぎ、<sup>(9)</sup>系統化すると同時に、部分的に自分なりの新機軸も加えた。ひとつは、大名たちに忠誠の証として人質を差し出させたことだった。(c)年には、秀吉は、自分が支配する全土で農民から

武器を没収する、いわゆる刀狩を実施した。かれはまた、( d )年と( e )年の2度にわたって、大規模な、そして無残な結果に終わった朝鮮遠征を行ったが、これは中国をも征服するという構想に立つものだったと考えられる。秀吉は同時に、( f )年にはじめて到来して以来国内で信者を獲得していたイエズス会の宣教師たちにも、敵対するようになった。( g )年に死んだ時点で、秀吉は、日本の全土を覆っていた大名の連合体の頂点に立ち、並ぶ者のない強大な力を握っていた。秀吉は信頼を置く有力大名たちを、五大老・奉行に任命してから世をさった。<sup>(12)</sup>

(出典：アンドルー・ゴードン著・森谷文昭訳『日本の200年』新版 上、一部改変)

問1 文章中の空欄( a )～( g )に当てはまる数字を次から1つずつ選びなさい。

- ① 1457    ② 1467    ③ 1477    ④ 1543    ⑤ 1549    ⑥ 1555  
 ⑦ 1580    ⑧ 1582    ⑨ 1584    ⑩ 1587    ⑪ 1588    ⑫ 1589  
 ⑬ 1591    ⑭ 1592    ⑮ 1593    ⑯ 1595    ⑰ 1597    ⑱ 1598  
 ⑲ 1599    ⑳ 1600

問2 文章中の空欄( ア )～( エ )に当てはまるものを次から1つずつ選びなさい。

- ① 宮座                      ② 城下町                      ③ 寺内町                      ④ 守護  
 ⑤ 守護代                      ⑥ 地頭                      ⑦ 国人                      ⑧ 吉崎本願寺  
 ⑨ 山科本願寺                      ⑩ 石山本願寺                      ⑪ 等持                      ⑫ 妙顕  
 ⑬ 妙満                      ⑭ 妙覚

問3 文章の作者は下線部(1)のように述べている。たしかに「戦乱」はなかったが、武力の行使がまったくなかったわけではない。そのなかでも、農民一揆の性格をもちながら、強く宗教的な背景をもった出来事の最後の砦はどこか。次から1つ選びなさい。

- ① 日野江城    ② 熊本城    ③ 志岐城    ④ 原城    ⑤ 唐津城

問4 文章中の下線部(2)について、次の各文のなかで誤りを含むものを次から1つ選びなさい。

- ① 細川勝元と山名持豊の対立であった。
- ② 将軍継嗣争いが関与していた。
- ③ 畠山・斯波家の領土争いが絡んでいた。
- ④ 結果的に、公家勢力と将軍権力が失墜した。
- ⑤ これをもって戦国時代の開始とされる。

問5 文章中の下線部(3)について、各選択肢に示す戦国大名の説明として誤りを含むものを、次から1つ選びなさい。

- ① 家がもと守護大名であった→今川義元，武田信玄，島津貴久
- ② 出身家がもと守護代クラスであった→上杉謙信，陶晴賢
- ③ 出身がもと土豪・国人クラスであった→浅井長政，毛利元就
- ④ 下剋上により戦国大名になった→竜造寺隆信，大友義鎮
- ⑤ 上記①～④以外→羽柴秀吉，小西行長

問6 文章中の下線部(4)について、イエズス会宣教師ヴィレラが「ヴェネチア」にたとえた港町について記述した文のうち、正しいものを次から1つ選びなさい。

- ① 室町時代には九州探題がおかれ、ここの商人は大内氏と結んで勘合貿易で活躍した。
- ② 15世紀後半より勘合貿易などで繁栄した。会合衆による自治が行われた。
- ③ 近海航路の基地として発展。松浦氏領に属する。古くは遣唐使船も寄港した。
- ④ 1580年イエズス会領となったが、秀吉により直轄領とされ、江戸幕府も引き継ぐ。
- ⑤ 古代には都の所在地であったこともある。園城寺の門前町でもある。

問7 文章中の下線部(5)について、こうした出来事によって「百姓の持ちたる国のように」なり自害に追いこまれた領主は誰か。次から1つ選びなさい。

- ① 足利義勝
- ② 赤松満祐
- ③ 大内義隆
- ④ 上杉憲忠
- ⑤ 富樫政親

問8 文章中の下線部(6)について、この年に起こった出来事は何か。次から1つ選びなさい。

- ① 守護代を滅ぼしてその居城清洲城をうばった。
- ② 今川義元を桶狭間の戦いで破った。
- ③ 美濃の斎藤氏を滅ぼして肥沃な濃尾平野を支配下においた。
- ④ 美濃の稲葉山城を岐阜城と改名した。
- ⑤ 足利義昭をたてて入京した。

問9 文章中の下線部(7)について、この記述は1571年の出来事を含んでいる。その具体的な対象となった寺はどれか、もっとも適切なものを次から1つ選びなさい。

- ① 高野山金剛峯寺
- ② 石山本願寺
- ③ 比叡山延暦寺
- ④ 奈良興福寺
- ⑤ 奈良東大寺

問10 文章中の下線部(8)について、信長の支配下に組み入れられなかった地域はどれか。次から1つ選びなさい。

- ① 近江
- ② 伊勢
- ③ 摂津
- ④ 筑前
- ⑤ 美濃

問11 文章中の下線部(9)について、近江国石寺新市で始められ、安土城下で信長が実施した政策は何か。次から1つ選びなさい。

- ① 楽市令
- ② 撰銭令
- ③ 関所撤廃令
- ④ 伴天連追放令
- ⑤ 惣無事令

問12 文章中の下線部(10)について、次の短文は「文禄の役」について説明したものである。下線①～⑤に誤りがあればその番号を、すべて正しければ⑥にマークしなさい。

4月の釜山<sup>①</sup>上陸ではじまるこの役は、当初日本軍が圧倒的な優位にたち、開戦後、5月初旬までに、漢城(現ソウル)<sup>②</sup>を陥落させ、その後、平壤(ピョンヤン)<sup>③</sup>を占領するほどの猛攻を見せたが、朝鮮水軍の李舜臣<sup>④</sup>の活躍や義兵の蜂起、明<sup>⑤</sup>の参戦などでしだいに戦況が膠着した。

問13 文章中の下線部(11)について、イエズス会の宣教師として来日し、その報告書である『日本史』を著した人物の出身地はどこか。次から1つ選びなさい。

- ① イタリア    ② スペイン(イスパニア)    ③ ポルトガル  
④ インド    ⑤ イギリス

問14 文章中の下線部(12)について、五奉行ではない人物は誰か。次から1つ選びなさい。

- ① 浅野長政    ② 宇喜多秀家    ③ 石田三成    ④ 前田玄以  
⑤ 長束正家

**4** 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

明治維新によって近代国家の歩みを始めた日本は、東アジアをはじめとする周辺地域での出兵や戦争を通じて、自国権益の確保と拡張を試み続けた。そうした行動は結局、1945(昭和20)年8月の太平洋戦争の敗北、さらには、翌年11月に公布された日本国憲法の戦争放棄をもって幕をおろすことになるが、その大半がほぼ10年ごとに起きている。

始まりは、明治維新からまもない1874(明治7)年の台湾出兵である。1871(明治4)年、台湾で琉球の漂流民が殺害されるという事件が発生したが、この殺害

行為に関して清国政府は、「( A )」によるものであるとして、責任を負わないと主張した。このため、日本国内では、軍人や士族による強硬論が高まり、日本政府は( ア )の指揮による台湾への出兵を決定するところとなった。

この事件は結果的に、駐清イギリス公使( イ )の調停もあって、清国政府が( B )に同意し、事実上の賠償金を日本に支払ったが、この時点で琉球の日本への帰属が明らかなものとなっていたわけではない。その国内的な対応が整うのは、一連の琉球処分が1879(明治12)年に完遂されることによってであり、その意味では、この出兵には、<sup>(a)</sup>新政府発足後の早い段階で日本の領土を確定しておこうとする目論見が潜んでいたといえる。実際、( C )の締結は1875(明治8)年、( D )の日本領有を英米に通告したのはその翌年のことである。

1894(明治27)年8月から始まる日清戦争は、朝鮮半島における権益をめぐってのものであった。すなわち、同年春、朝鮮では、東学の信徒を中心にする農民が減税と排日を要求して反乱を起こし、それが( E )と呼ばれるまでに発展したため、朝鮮政府は清国に軍隊の派遣を要請した。清国政府は、ただちに出兵を決定するとともに、( F )に従ってこれを日本に通知し、日本政府も清国に対抗して出兵させたことから、日清両国は交戦状態に突入することになった。

もともと、日本は、1875(明治8)年の( G )の後、( H )を結んで朝鮮を開国させたが、朝鮮国内では親日派と反日派の対立が顕著なものとなり、それは1880年代前半に2度の事変となってあらわれた。これにより極度に悪化した日清<sup>(b)</sup>関係を打開するため、日本政府から派遣された( ウ )と、清国全権( エ )との間で( F )を締結するに至ったが、この条約は、この時点で朝鮮からの日清両国の撤兵を実現させる一方で、上述のとおり、日清戦争につながる出兵の契機をつくることにもなったのである。

その日清戦争は、国際的には、日本の出兵に批判的だったイギリスが( I )の調印により態度を変えたこと、国内的には、開戦と同時に政党による政府批判が止み、議会でも戦争関係の予算や法律案が承認されたこと、さらには、軍隊の装備などの軍事的優位も影響して、戦局は日本の圧倒的優勢のまま展開し、日本の勝利に終わった。1895(明治28)年4月、( J )が締結され、清国が大幅に譲歩<sup>(c)</sup>することで、日清両国間の講和が成立した。

それから約10年を経て、日露戦争が起きた。ロシアが、1900(明治33)年の北清事変を機に、中国東北部(いわゆる満州)の独占的権益を清国に承認させたため、日本政府は韓国における日本の権益が脅かされることを懸念して対露交渉を進めたが、1904(明治37)年、(オ)内閣のもとでその交渉を打ち切り、開戦に至ったものである。戦況は辛うじて日本有利に推移したが、日露両国はそれぞれの国内事情から戦争を継続することが困難(d)になっていた。そこで、米国大統領(カ)の斡旋により、1905(明治38)年9月、日本全権(キ)とロシア全権(ク)が(K)を調印し、両国は講和することになった。

さらに、1914(大正3)年7月、第1次世界大戦が勃発し、イギリスがドイツに宣戦すると、日本もこれに参戦した。もともとロシアの南下策に対抗して結ばれた(L)が、1911(明治44)年7月、ドイツの進出に対応すべく改定されていたため、イギリスから対独戦に加わるよう要請されると、(ケ)内閣は、軍事行動の範囲についてイギリスとの合意がないまま、ドイツに宣戦布告することに決したのである。その結果、ドイツの中国における根拠地たる青島や山東省の権益を接収するとともに、赤道以北のドイツ領南洋諸島の一部を占領した。

問1 文章中の空欄(ア)～(ケ)に当てはまるもっとも適切な人名を次から1つずつ選びなさい。

- |                 |               |          |
|-----------------|---------------|----------|
| ① 青木周蔵          | ② 伊藤博文        | ③ ウィルソン  |
| ④ ウェード          | ⑤ 大隈重信        | ⑥ 桂 太郎   |
| ⑦ 樺山資紀          | ⑧ グラント        | ⑨ 小村寿太郎  |
| ⑩ 西園寺公望         | ⑪ 西郷従道        | ⑫ ストルイピン |
| ⑬ タフト           | ⑭ 寺島宗則        | ⑮ ヴィッテ   |
| ⑯ 陸奥宗光          | ⑰ 山県有朋        | ⑱ 李 鴻章   |
| ⑲ 梁 啓超          | ⑳ セオドア・ルーズベルト |          |
| ㉑ フランクリン・ルーズベルト |               |          |

問2 文章中の空欄( A )～( L )に当てはまるもっとも適切な語句を次から1つずつ選びなさい。

- |           |           |             |
|-----------|-----------|-------------|
| ① 硫黄島     | ② 小笠原諸島   | ③ 樺太・千島交換条約 |
| ④ 化外の民    | ⑤ 華外の民    | ⑥ 義和団の乱     |
| ⑦ 江華島事件   | ⑧ 甲午農民戦争  | ⑨ 甲申事変      |
| ⑩ 先島分割案   | ⑪ 下関条約    | ⑫ 壬午軍乱      |
| ⑬ 定州事件    | ⑭ 天津条約    | ⑮ 日英通商航海条約  |
| ⑯ 日英同盟協約  | ⑰ 日英和親条約  | ⑱ 日清互換條款    |
| ⑲ 日清修好条規  | ⑳ 日清和親条約  | ㉑ 日朝修好条規    |
| ㉒ 日朝和親条約  | ㉓ 日露協約    | ㉔ 日露協商      |
| ㉕ 日露和親条約  | ㉖ ハーグ密使事件 | ㉗ 北京議定書     |
| ㉘ ポーツマス条約 | ㉙ 南鳥島     | ㉚ ワシントン条約   |

問3 文章中の下線部(a)にかかわる説明として正しいものはどれか。次から1つ選びなさい。

- ① 1871(明治4)年、琉球王国を廃して、琉球藩を設置し、国王尚泰を藩王とし、華族に列した。
- ② 1872(明治5)年、琉球藩そのものを解体し、鹿児島県の一部に編入した。
- ③ 1878(明治11)年、琉球県として単独の県となったが、土地制度や地方制度などの改革は先送りにされた。
- ④ 1879(明治12)年、沖縄県を設置したものの、旧慣温存策がとられ、人頭税等はそのままとされた。



問4 文章中の下線部(b)にかかわる説明として正しいものはどれか。次から1つ  
選びなさい。

- ① 最初の事変当時、清国寄りであった閔一族は、そののち、日本の後援を得て内政改革を進めていく方針に転じた。
- ② 鎖国攘夷策を主張する大院君が、軍隊を煽動して漢城で反乱を起こし、閔一族を政権の座から降ろした。
- ③ 日本と結んで朝鮮の近代化を図ろうとする金玉均らの独立党が、日本の後援のもとにクーデタを起こした。
- ④ 清の勢力下で朝鮮の安全維持を図ろうとする事大党は、2度の事変を経て、衰退することになった。

問5 文章中の下線部(c)にかかわり、清国の「譲歩」の説明として誤っているものはどれか。次から1つ選びなさい。

- ① 朝鮮の独立を認めること。
- ② 山東半島および台湾・澎湖諸島を日本に割譲すること。
- ③ 賠償金2億<sup>テール</sup>両を日本に支払うこと。
- ④ 沙市、重慶、蘇州、杭州の4港を開くこと。

問6 文章中の下線部(d)にかかわる説明として正しいものはどれか。次から1つ  
選びなさい。

- ① 日露戦争は、本格的な近代戦・物量戦となったため、兵器、弾薬、兵士の補給が日露ともに限界に達していた。
- ② 日本国内には、人道主義や社会主義の立場からの非戦論・反戦論が強く主張され、日比谷焼打ち事件まで起きていた。
- ③ 日本の戦費は、非常特別税による増税や国内外の国債発行に大きく依存し、国民負担の限度に近かった。
- ④ ロシアでは、革命勢力が力を得て、ロシア三月革命の発端となる血の日曜日事件が起きていた。





